

れんこんの生産安定

ねらい

れんこん腐敗症状は地上部が枯死したり、れんこん可食部の中心孔の変形や、変色、腐敗がみられる症状であり、一般的には腐敗病といわれています。

近年この腐敗症状による被害が増加し、出荷量が減少しています。

この腐敗症状に登録のある農薬はなく、対策として太陽熱消毒が行われていますが、労力面等の課題があります。

そこで、土壌還元消毒の実証を行うとともに、土壌消毒技術の普及等により、れんこんの生産安定を図ります。

活動地域・対象

地域：徳島市，鳴門市，松茂町，北島町，藍住町，板野町

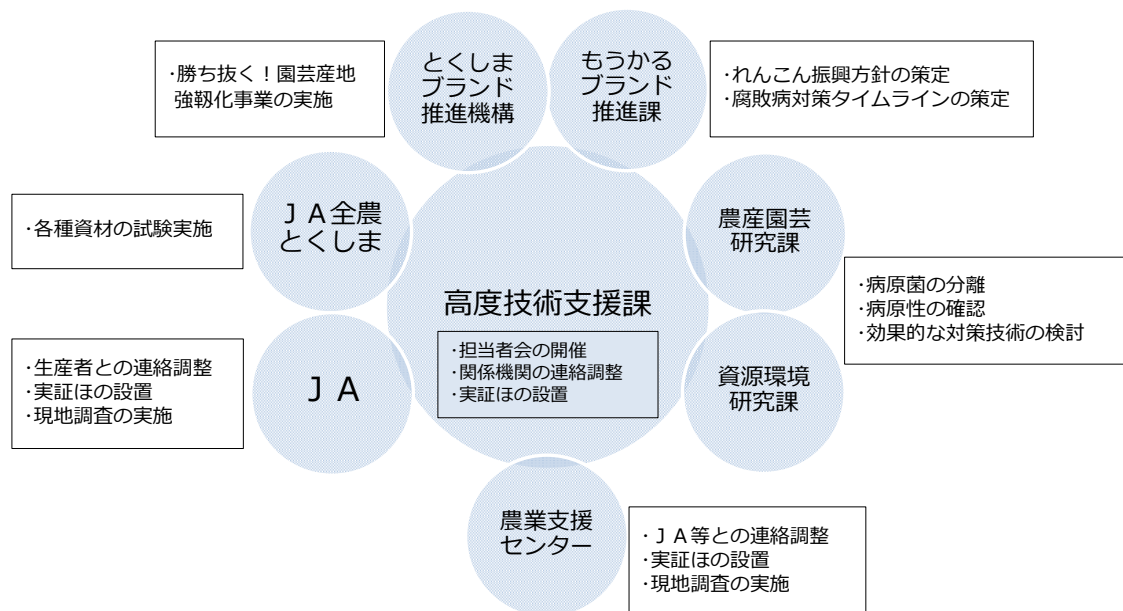
対象：れんこん生産者

普及活動の目標

- ①土壌還元消毒等の実証と普及
- ②土壌還元消毒等の実施による収量の増加

目標に向けた活動概要

1 活動の実施体制と主な役割



2 担当者会の開催

れんこんの生産安定に関係機関が連携して取り組むため、担当者会を開催し、成果の共有や今後の取組みについて検討しました。（年間2～3回）

普及活動の成果

1 担当者会の開催

れんこん腐敗症対策タイムラインの作成を通じて、れんこんの生産安定に必要な取り組みが明確化されました。

2 れんこん産地連携会議の開催

れんこん腐敗症対策の取り組みや安定出荷体制等について関係者間で合意形成ができました。(写真1)



3 れんこん栽培研修会の開催

県内の生産者や関係機関が参加するとともに、全国主要5産地とオンラインで結び開催しました。全国の産地と今後の課題解決に向けて情報共有することができました。(写真2)



4 水封式土壌還元消毒の実証

- 菌密度の低下や消毒効果の目安となる還元状態(-200mv以下)を継続していることが確認できました。(図1)
- 収量は3割程度増加しているほ場も確認できましたが、ほとんど変わらないほ場もありました。(図2)

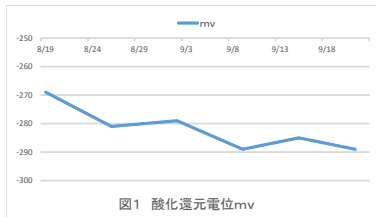


図1 酸化還元電位mv

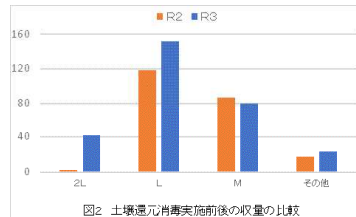


図2 土壌還元消毒実施前後の収量の比較

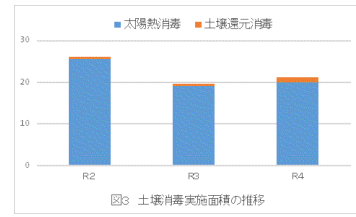


図3 土壌消毒実施面積の推移

5 土壌消毒実施面積の推移

実施面積は令和2年までは増加傾向でしたが、令和3、4年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、実施面積が若干減少しています。(図3)

用語
説明

【太陽熱消毒】7~8月の盛夏期に、石灰窒素を土壌混和後、代かきし、ほ場全面を透明のフィルムで覆い、土壌消毒を行います。

【水封式土壌還元消毒】小麦ふすま等を土壌混和し、代かき後湛水状態を保ち、フィルム被覆は行わず、土壌消毒を行います。

今後の発展方向

本県の主力品目であるれんこんの生産安定のために今後も引き続き取り組みます。

関係者からの声

れんこんの生産安定のため、引き続き実施してほしい。(生産者・JA)

高度技術支援課 連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922